

本邦企業から見たダナン地域への投資

2017年9月14日

ベトナム三菱商事会社 船山 徹

1. 海外進出に於ける判断基準とダナンの魅力

	判断基準	ダナン
1	経済成長率	<ul style="list-style-type: none">● 年平均 8~9%● GRDP 3 千米ドル
2	人口	<ul style="list-style-type: none">● 1百万人都市● 人口増加率：2.4%
3	親日性	<ul style="list-style-type: none">● 在留邦人の急増● 日本文化受容

成長著しいベトナムの中でも
特に本邦企業の進出を促したい「注目都市」

2. 弊社の今後の注力分野

1. インフラ

- 発電 (BOT/EPC)
- 空港開発、都市鉄道整備 (含：メトロ計画)
- Gas to Power



2. 中間層の取り込み

- 都市部における「実需」取り込み
 - 複合都市開発
 - 小売事業 (含：コンビニエンスストア)



3. 社会ニーズへの対応

- 医療・ヘルスケア分野
 - 地方都市中核病院拡張計画 (PPPモデル)



4. IT活用

- 既存事業の強化
- 新規分野への参入 (例：非現金決済事業)



3. ダナン市の注力分野と弊社の機会

ダナン市の注力分野

1

- 「インフラ」×「観光」
 - Lien Chieu港、鉄道を中心としたインフラ整備をPPPモデルで実施
 - リゾート、メディカルツーリズム等の建設ラッシュ

2

- 「ハイテク産業」(IT)
 - 「ダナンハイテクパーク」の整備
 - ソフトウェア開発 (FPT Da Nang)

3

- 「環境」
 - 都市のスマート化
 - 市民の意識向上

弊社の機会

PPPモデル活用



既存事業の強化 新規分野への参入



電気自動車、PHEV



4. ダナン市の魅力（進出企業ヒアリング）

- 1
 - 優秀で廉価な労働力
 - 特に労働集約型産業に於いて強み
 - 低いストライキ発生リスク
- 2
 - 魅力的な住環境
 - ハノイ・ホーチミンに比して圧倒的に少ない渋滞、空港への好アクセス
 - 風光明媚なビーチに直結する環境
- 3
 - 「観光」×「IT」
 - 世界遺産が集中する観光地、アクセス向上による観光客急増
 - 日系のソフトウェア開発企業を中心に進出が加速
- 4
 - 整備されたインフラ
 - この10年で、道路整備は大幅に改善
 - 電力・水供給は事業活動に支障をきたさない水準

5. ダナン市の課題（弊社の認識及び進出企業ヒアリング）

1

- 「ハイテク」産業を切り口とした際、ダナン市の強みをどう活かすか？
 - シリコンバレーと比較した場合
 - 「人々の考え方を変える」「生活スタイルを変える」ものを作ることが出来るか
 - 「ハイテクパーク」への入居促進

2

- 複数の産業を、どのように同時に育成していくか？
 - IT産業と観光産業が同時に発達している為、優秀な日本語人材の「取り合い」が起きている状況
 - ダナン市の「人材」に魅力を感じて進出する企業は多く、喫緊の課題

3

- 裾野産業を、どう育成するか？
 - コスト面で、部品メーカーの誘致にあたっては、よほど魅力的なインセンティブを提示しない限り難しい状況

6. APECの重要性

「インフラ」×「観光」

- 1
 - 「観光地」としての知名度アップ
 - インフラ整備の更なる促進

「ハイテク産業」(IT)

- 2
 - 日本や韓国を中心に、参加21ヶ国の企業投資を呼び込む機会

「環境」

- 3
 - 「環境都市」を世界にアピールするショーケースとして活用



シンガポール型都市に向けた更なる飛躍